

## 資料、1

2019年度 第1回 ライフステージ事例検討会 報告書	
日時	2019年6月4日(火) 17時45分～19時15分
開催施設 参加者数	金沢大学19名、富山大学10名、福井大学9名、金沢医科大学9名、石川県立看護大学6名、信州大学9名、石川県済生会金沢病院3名、国立病院機構金沢医療センター3名、金沢市立病院0名、公立松任石川中央病院11名、石川県立中央病院16名、富山市民病院6名、高岡市民病院6名、富山赤十字病院6名、富山県済生会高岡病院0名、黒部市民病院0名 合計 113名
テーマ	「転倒・転落の危険性が高い終末期がん患者の尊厳を保つ関わり －患者の人生から考える“動きたい”の意味－」
発表者	福井県済生会病院 松本 友梨子さん
<p>【意見交換内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が一方的に転倒・転落予防策を行うのではなく、患者と共に考えていくことが必要だと意見交換された。</li> <li>・必要性や患者の安全の確保と希望をどのように考えていけば良いか話し合われた。</li> <li>・倫理的問題について自由に語る事ができる環境の必要性や倫理カンファレンスの時期、内容、参加職種などについて意見交換が行われた。</li> </ul> <p>【他施設からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の動き理由を観察や会話から知り、ケアを考えていくことが大切。</li> <li>・倫理カンファレンスについてルール化していくことも必要なのではないか。</li> <li>・行動制限を行う際には、患者や家族、他のスタッフと相談してから行うべきではないか。</li> <li>・倫理カンファレンスを継続していく必要があり、スタッフがもやもやしていることを自由に発信できるような風土づくりや倫理カンファレンスを開催できる環境の整備など組織的な支援も必要ではないか。</li> </ul>	
ミニレクチャー	「緩和ケアにおける倫理的問題への対応」